別紙様式2（高）

令和2年度　県立取手第二高等学校自己評価表

目指す学校像	(1) 生徒が充実した学びを得られる学校　(2) 生徒が主役となって互いに学びあえる学校　(3) 教師が専門家として互いに育ち合える学校 (4) 生徒の進路希望が叶えられる学校　(5) 地域に開かれた魅力ある学校

昨年度の成果と課題	重点項目	重点目標	達成状況
〈成果〉 卒業生の大学短大進学率はこの3年間30％台を維持し、進路意識の高揚が学校生活の安定につながっている。全校生が各自の1年間の取り組みを振り返り自他ともに評価する「学びの総括」が定着しつつあり、目標を持って学校生活を送る意識が徐々に高まってきた。手帳によるスケジュール管理、ウェブ学習ツールでの学習課題など、生徒の自主自律を促す多様な働きかけを継続して行っている。家政科では被服検定、食物検定1級に延べ47名が合格し、全国高等学校家庭クラブ連盟主催全国高校生クリエイティヴコンテストにおいて課題研究「さをり織り」作品が佳作入賞を果たした。年2回実施した学校周辺の清掃ボランティア活動には延べ200名を超える生徒が参加した。 〈課題〉 進路目標は3年生で具体化する生徒が多く、進路実現に向けて早期から積極的、計画的に学習その他の活動に取り組む意識が全体的に薄い。手帳によるスケジュール管理やウェブ学習ツール等、主体性を養う環境はあるが、有効活用できていない生徒が多い。授業を中心に据えた基礎学力の向上と、自主学習を促す取り組みを行う。部活動加入率は30％程度にとどまっており、加入率増加を図り学校のいっそうの活性化につなげたい。日常の細やかな生徒観察や丁寧な生徒指導に学校全体で継続的に取り組み、いじめ及び体罰の未然防止と早期対応に努める。	学習意欲を向上させるための授業実践	・生徒の実態を踏まえて基礎学力の定着を図るとともに、家庭で学習する習慣を身に付けさせる。	B
		・教科ごとに公開授業を計画・実施することで、互いの指導法改善に役立てる。	B
		・ICTを取り入れ、生徒が主体的で深い学びを得られる授業を実践する。	B
		・チャイムと同時に授業を開始し、チャイムと同時に授業を終了させる。	A
		・ユニバーサルデザインを活用したわかりやすい授業の実践を目指す。	A
	部活動加入率の向上	・「部活動に係る活動方針」に基づき、心身ともに健全な人間の育成を目指す。	A
		・部活動の活性化をバネに、何事にも積極的に行動する生徒の育成を目指す。	A
		・生徒と指導者の信頼関係に基づいた指導を展開する。	A
		・各部活動の活動内容を充実させることで、加入率の増加を目指す。（加入率49.1％：R2年度1月時点）	A
	社会で通用するマナー・ルールを身に付けさせる生徒指導	・自ら進んで挨拶できる習慣を身に付けさせる。	A
		・段階的指導を有効に活用し、規範意識を高めるとともに公共の場におけるマナーを身に付けさせる。	B
		・集団の一員として他人の立場を尊重し、思いやりの心で人と接することができるようにする。	A
	基礎学力の定着を基にしたキャリア教育の推進	・3年間を見通して、生徒が自己の進路希望を実現できるようなキャリア教育を推進する。	A
		・高校生活や卒業後の進路のあり方を考える機会の充実を図る。	A
		・デュアルシステムやインターンシップなどの実践により、職業意識の高揚を図る。	B
		・3年生の時点で、進路希望未決定者を0％にする。	B
	生徒会・家政科・部活動を中心としたボランティア活動の充実	・生徒会活動を充実させて、リーダーの育成を図る。	B
		・市内清掃ボランティア等、現在実施している行事を継承する。	C
		・学校行事での校外施設との連携を図る。	C
		・新たなボランティア活動の取り組みを展開する。	C
	業務改善による教職員の多忙化の解消	・校務における情報化を促進し、業務の効率化を図る。	A

評価項目	具体的目標	具体的方策	評価		次年度（学期）への主な課題
国語	「分かる授業」の実践をする。	十分な教材研究に基づいた「分かる授業」を実践するとともに、生徒が知的好奇心をもち自ら積極的に参加する授業を目ざし、ICTを取り入れる等の工夫を行う。	B	B	休業中の課題やオンライン授業など様々な形での教育に対応できるスキルを身に付ける。 社会の変化に対応できるよう、言語運用能力を向上させる授業のあり方を考える。 言葉の豊かさや大切さを実感できる機会を設ける。 読書習慣を身に付けさせる。
		小テストや作品づくりなどを通し、生徒の理解度を細かに把握し、授業の展開や評価に活かす。	A		
	基礎学力の定着を図る。	授業の充実及び学年等と連携した課外授業の実施を通して、読解力や実社会・上級学校に通用する言語運用能力の向上を図る。	B		
		漢字検定を年3回実施し、漢字力や語彙力の向上を支援する。	A		
		新聞の活用や読書指導を実践し、読書習慣を身に付けさせるとともに、「書く」指導を充実させ、自己表現力を身に付けさせる。	B		
		各研修会等に積極的に参加し、自己研鑽に努め、授業実践力の向上を目指す。	C		
地歴公民	基礎学力の定着を図り、社会的事象に対する興味・関心を高める。	生徒の実態に即し、教科内容を精選し、理解力を高める。	A	B	感染症による課題の作成、授業の展開が課題となった。生徒の学力定着のため感染症による社会の動きを読んでどのような教材の提供、授業の展開が望ましいのかを熟慮して生徒に指導していかなければならない。また定期考査の出題の仕方も工夫したい。
		副教材を活用し、興味・関心を高め、自ら判断し、探究する姿勢を養う。	B		
	生徒が自ら考え、主体的に取り組む授業を行うことで思考力・表現力を身に付けさせる。	視聴覚教材・インターネットなどを活用し、社会的事象に興味を抱かせる。	A		
		グループ学習やレポートの発表など生徒が主体的に参加する授業形態を取り入れる。	B		
		適切な発問や課題を通じて、自らの考えを表現する力を養う。	B		

別紙様式2（高）

評価項目	具体的目標	具体的方策	評価		次年度（学期）への主な課題
数学	身近な事象や課題を、数学を用いて解決する力を養う。	身近な題材を用いた問題を扱い、生活との関連を重視した学習を行うことで、数学的に物事を解決する力を身に付けさせる。	B	B	休校や分散登校などコロナ禍の影響で家庭学習の比重が多くなったため、宿題内容の選定やICTの活用に力を入れた。確かな学力を身に付けさせるための補習や授業実践を継続して行うことができた。次年度は客観的・論理的に物事を説明する力の習熟に努めたい。
	論拠に基づき自分で判断する力を育成する。	問題演習にとどまらず、他者に説明する機会や、自分の考えを記述する機会を増やし、客観的・論理的に物事を説明する力を身に付けさせる。	B		
	基礎学力の向上を図り、大学入試にまで対応できる力をつける。	小テストの実施、放課後の補習・宿題等で確かな学力を身に付けさせる。数学検定を実施し、学力の向上を支援する。思考力を要する発展的問題に取り組ませ、大学入試に対応できる学力の向上を目指す。	A		
理科	科学的リテラシー、学習事項の基礎基本の定着と上級学校へ向けた学力育成に努める。(知識・技能)	スタディサプリの活用を研究し、効果的な学習方法が展開できるよう援助する。	B	B	個に応じた対応や、主体的に学ぶ生徒の力の向上が見られたので、継続していく。 コロナ禍で表面化したのは、デジタル機器の有効活用や、スタディサプリを活用したオンデマンド学習の効果的な活用の必要性である。次年度以降、BYODでのデジタル機器の活用が本格化していく中、日常的にデジタル機器を活用し、アクティブラーニングにつなげていく工夫や、急な休校にも対応できるGoogleclassroomを利用した仮想空間での授業を「当たり前」にしていく必要がある。 そのため、教科内だけでなく他教科の様々な授業形態を相互で参観し、授業力を向上していくことが大きな課題である。
		個に応じた進学課外授業を実施する。	B		
	生徒の主体性を育成できるような授業展開に努める。（学びに向かう力）	日常生活との関連や、授業の目的の明確化により、能動的な学びを展開する。	A		
		相互授業参観を2回以上行い、教科間で情報の共有や指導法の相互評価を行うことで授業力の向上を図る。	C		
		アクティブラーニングの手法を用いた学習を実践する。また、それに伴う教具を準備する。	B		
	学習事項と日常の科学的事象とを結びつけて考えられる力を育成する。（思考力・判断力・表現力）	振り返りシートを簡素化し学習内容を文章で表現し、興味関心を持った内容や授業での思考力を必要とする気づきや疑問点をまとめられる力を育成する。	A		
		アプリ(ソフト)やデジタル機器(ハード)を利用した教材の研究と活用を進める。	B		
	観点別評価を行うことで、生徒の資質を多様な側面から評価できるよう努める。	定期考査における評価を観点別に行う。	A		
		振り返りシート、レポート、小テスト、パフォーマンステストなど、多様な評価を行うとともに、定期考査で評価する観点を明確にする。	A		
保健体育	体力の向上を図る。	準備体操にオリジナルダンスの創作と導入をおこない、主体的・協働的な活動と体力の維持・向上を図る。	A	B	ワークシートを充実させ、活動目標と成果を意識して、質の向上を目指す。 オリジナルウォーミングアップダンスを継承し、より主体的・協働的な活動の実現を目指す。 ICT機器を導入して、ICT機器を活用した新たな授業づくりを目指す。
		体力テストの結果から、次年度の改善策を検討する。	C		
	技能向上を把握する。	各種目・各講座において、スキルテストの統一実施を行う。	A		
	社会的態度を育成する。	挨拶、準備、片付け、集団行動に力を入れる。	B		
	思考・判断を育成する。	グループ学習を取り入れ、生徒が自ら考え、意見を共有する場をつくる。	B		
	課題学習の充実を図る。	プリント、ノートを定期的に点検し、学習の習慣をつける。	A		
芸術	表現領域をより深め、創造的な能力を高める。	幅広い教材を扱い、多様な技術や表現方法に触れ、表現技能の基礎を育成する。	A	B	表現領域の学習と鑑賞領域の学習を関連付けて行うことで、より一層、芸術文化についての理解を深め、豊かな情操を育みたい。
		表現方法を工夫しながら、生徒の個性を生かした創造的な表現活動を支援する。	B		
	鑑賞領域を充実させ、芸術文化についての理解を深める。	日本や世界の様々な芸術作品に触れ、よさや美しさを味わうことで、鑑賞意欲を育てる。	A		
		作品について自分の言葉で表現すること、また他者の思いを感じ取ることで、鑑賞の能力を高める。	B		
外国語	基礎学力の向上を図る。	小テストや単語テストを継続的に実施し、4技能の基礎としての語彙力・文法知識の向上を図る。	A	B	多様化する生徒の学力と進路希望に対応するため、全体の基礎力向上に加え、すべての学力層や様々な進路に応じた細やかな指導をできるよう工夫する。 休校の影響により家庭学習の機会が増し、ICTの活用が進んだが、今後は生徒の自主学習の定着を目指し、意識の高揚をさらに促す。 4技能を活用し向上する指導の工夫についての研究を継続し、授業に還元する。
		進学対策や英検指導など生徒の進路に応じた課外授業を実施し、実態に即した支援を行う。	B		
	家庭学習の定着を図る。	予習・復習を前提とした授業を展開し、家庭学習の習慣を定着させる。	A		
		定期考査の計画的な対策や事後の振り返りなど、自主的に学習に取り組む意識の高揚を促す。	B		
		課題配信や視聴の促進等、スタディサプリの効果的な活用を通して自主学習の定着を図る。	A		
	英語コミュニケーション能力を高める授業を工夫する。	ALTの活用を通して4技能を総合的に高める指導を工夫し、実践的コミュニケーション能力の育成を図る。	A		
		グループやペアによる言語コミュニケーション活動を用いた生徒主体の授業を積極的に展開する。	B		

別紙様式２（高）

評価項目	具体的目標	具体的方策	評価		次年度（学期）への主な課題
家庭	知識と技術の定着・向上を図る。	家政科においては、技術検定等の資格取得（上級合格）を目指し、特に家庭科技術検定では1級3冠王を輩出する。	A	B	検定に関しては、コロナ禍により、実習授業がなかなか難しいこともあってか、生徒たち（特に3年生）の検定合格につながらないこともあった。実技の習得に向けた指導を来年度に向けて行っていきたい。 課題研究さをり織りでは、取手市からの要請を受けて「アマビエ人形」を作成し、PRにもつながった。課題研究ファッションコースは、コロナ禍でも文化祭の発表を実施し、好評を得ることができた。 教員間で情報を共有し、指導力向上・ITCの活用、実技向上のため研修することができた。 大学出前講座などを通して、進路についての意識付けや職業観の形成につなげることができた。 コロナ禍だからできること、できないこともありなかなか大変な1年であった。来年度はこれを生かして活動していきたい。
		個々の生徒の到達度を把握し、きめ細やかな支援を徹底する。	A		
		家庭での反復学習の指導、計画的な補習を行う。	A		
	教員の指導力と管理能力の向上に努める。	日々教材研究に努め、正確かつ最新の情報を授業に取り入れるよう努める。	B		
		専門科目を教える自覚を持ち、自身の技術向上のために日々研修に励む。	A		
		包丁や裁ちバサミなど実習道具の安全管理に努める。	A		
	地域との連携強化に努める。	学校家庭クラブ活動を活発にする。	B		
		子育て支援、家庭教育支援を行う。	B		
		TORINYブランドのPR及び学校通信等を通じて本校家政科の広報活動を行う。	B		
	進学指導の充実に努める。	大学出前講座やマイスター制度を利用し、進学意識を高める。	A		
		デュアルシステムを導入し、生活産業への理解を深めさせる。	A		
		キャリア教育を教科指導に導入し、職業観を培う。	B		
		家政系の大学への進学を意識づけるよう、情報提供を行う。	B		
情報	基礎学力の向上を図る。	パソコンの実習を通して、基本的な操作の習得・習熟に努める。	A	B	教科書の内容をきちんと修得させることでパソコンに関する技能・知識の格差を無くしていきたい。また引き続きビジネス文書実務検定試験の受験を通じて情報処理技能の向上を図りたい。
		振り返りシートを用いて毎時間の達成状況を把握し、個別の指導に生かす。	A		
		プレゼンテーション能力向上を目指す指導を強化して情報的表現力の向上に努める。	B		
		ビジネス文書実務検定試験の受験を通じて自己研鑽の心を育成する。	A		
	情報モラルを確立させる。	情報化社会の問題点を捉えることを重点課題とし、情報モラルについて年間を通じて繰り返し指導する。	A		
		情報をめぐる具体的な問題事例を取り上げて、その改善策を考えさせる。	B		
教務部	授業の充実による基礎学力の定着を図る。	シラバスを作成・活用し、年間を通して計画的な授業展開を行う。	A	A	ユニバーサルデザインを意識し個々の生徒に配慮した「わかる授業」を引き続き研究、推進する。 進路指導・教科指導と連携し、授業の予習復習をはじめ各種検定試験や模擬試験対策など、生徒が学年や学習段階に応じて自主的に学習に取り組む習慣づくりを支援する。 文部科学省GIGAスクール構想における1人1台端末(BYOD)体制での情報端末を利用した授業について校内ICT推進委員会と連携して研究・推進し、教科科目を問わず可能な範囲でのICTを用いた授業展開を促す。
		研究授業等を通して授業スキルを向上させるとともに、ユニバーサルデザインを意識し個々の生徒に配慮した「わかる授業」を研究、推進する。	A		
		学習活動アンケートを実施して生徒の授業理解度や学習状況等を把握し、授業改善に生かすことで生徒の実態に即した授業を展開する。	A		
		行事に際しての特編授業の設定や、必要に応じた授業交換により、授業の偏りに配慮しつつ授業時間確保に努める。	A		
	校内研修会を充実させる。	各校務分掌部と連携して職員研修会を開催し、情報共有や指導力向上に努める。	B		
		外部での諸研修会の結果報告の場を設け、職員全体での情報の共有を図る。	B		
	校内におけるICT環境整備に努める。	各普通教室及び特別教室等に整備する教育用コンピュータや周辺機器の管理を行う。	A		
		校内LANやインターネット接続といったネットワーク環境の整備に努める。	A		
		ICT環境の保守管理にあたり、情報セキュリティの確保や個人情報の保護、コンピュータウィルスへの対応に留意する。	A		
生徒指導部	基本的生活習慣の確立を図る。	きちんとした身だしなみを身に付けさせる（頭髪・服装指導の定着）。	B	B	基本的生活習慣の定着を目指し「ダメなことはダメ」という規範を教え、善悪の区別できる判断力を養うとともに、自分の行動に対して自分で責任をとるという社会人としての基本を実践で学ばせる。
		自ら環境等を整える態度を育成する（段階的指導による自己指導力の育成）。	B		
		礼儀・挨拶、言葉遣い等の基本的マナーを身に付けさせる（声かけ指導）。	A		
		時間を守って生活できる習慣を育成する（遅刻指導等）。	B		
	生徒が自己実現を図るうえで必要な自己指導能力の育成を目指す。	問題行動への予防・解決に努め、生徒を健全育成する（家庭訪問・個人面談等の実施）。	A		
		学校・家庭・地域・関係機関等と連携して生徒の健全育成と社会的自立を図る。	A		
	交通安全指導の充実を図る。	登校指導等による道路交通法の励行・交通安全講話を実施する。	A		

別紙様式2（高）

評価項目	具体的目標	具体的方策	評価		次年度（学期）への主な課題
進路指導部	生徒の進路意識の向上と適性に応じた進路選択、自主的な進路活動を支援する。	3年間を見通した進路計画を具体化し、各学年と目的と内容を共有した上で、計画的に進路行事を実施し、発達段階に応じて進路意識を向上させ学習意欲を喚起させる。	A	B	コロナ禍により当初の計画通りに行事を実行できず、中止や変更が多かった。新しい入試方式にはある程度対応できたが、生徒の意識が低く、担任をはじめとして教員側の負担が大きくなった感は否めない。大学・短大の入試日程の先送りにより専門学校進学者が増加したが、キャリアプランを持たない安直な学校・分野選びが散見されたので、就職を視野に入れた選択を一層促していく必要がある。就職に関しては、景気の冷え込みが心配されたが、学校斡旋を希望した生徒については比較的順調に内定を得ることができた。自己開拓を希望する生徒が例年より多く、今後が心配される。
		キャリア教育の一環として、インターンシップや職業人講話、職業ガイダンスを計画・実施し、職業観・勤労観を身に付けさせる。	B		
		進路のしおり・情報誌等を提供することにより、生徒の自主的な進路活動を支援する。	A		
	大学進学に向けた進路指導体制の充実を図る。	各教科と連携を図り、授業力向上に対して情報交換を行うとともに、長期休業中においてはセミナー等を計画・実施する。	B		
		各学年と連携を図り、外部模試を計画・実施し、その結果を分析し生徒一人一人の進路希望実現へと繋げる。	A		
		生徒の実態に即した学習環境の整備に努め、基礎学力の定着から応用力の養成まで学校全体でサポートし、一層の学力の増進と大学進学率の向上に繋げる。	A		
	進路情報の共有と活用に努める。	生徒のデータベースを作成して、必要な情報を共有して進路指導や面談等に活用する。進路情報についても情報共有を行い、指導者の専門的な知識を活かした支援を行う。	A		
		新課程の導入や入試制度の変更に向けて情報収集や研究に努める。	A		
特別活動部	キャリアパスポートを活用し、生徒が主体的に活動するための支援を行う。	各種生徒会行事に対して、生徒が自主的に活動・運営できるように支援する。	B	B	感染症対策を充実させながら、行事を充実させる。 生徒主体の企画・運営を行えるように支援して、質の向上を目指す。 委員会の活動機会を充実させる。
		生徒が、地域貢献活動に主体的に参加できるように支援する。	C		
		部活動の活動の質を高め、生徒の健全な心身の育成と学校の活性化につなげる。	B		
		広報委員会を中心として学校PR活動が活性化するよう支援する。	B		
保健安全部	各種検診を完全実施する。	広報・伝達の徹底を図る。	A	B	コロナ禍により計画の変更や中止により例年通りの研修等が出来ず、感染予防や感染者が出た場合等異常事態発生時への対応などを考えさせられた一年となったが、感染予防を含め防災等の危機管理への取り組みにも個人差が見られ、正しい情報の提供を基に教職員・生徒ともに意識の向上を図りたい。環境美化に対しても同様、学年やクラスによって清掃状況に差があり、特にゴミに関しては改めて分別内容の確認をし、正しく処理できるようにする必要性を感じた。 性教育に関しては実態・ニーズに応じた内容を検討し、学年別での性教育講演会の計画を考えたい。
		学校医との連携を図る。	A		
	教育相談の充実を図る。	生徒・教師・保護者との連絡を密にする。	A		
		スクールカウンセラー及び関係諸機関との連携を図る。	A		
	環境整備・清掃を強化する。	生徒の意識の向上を図る。	C		
		委員会の活用を図る。	B		
	職員研修の充実を図る。	危機管理防災意識を向上させる。	A		
		スクールカウンセラーを交えたケース会議を開催する。	B		
		AED講習会を開催する。	C		
	性教育意識を向上させる。	知識の理解と啓発を図る。	B		
		生徒の実態に応じた性教育講演会を実施する。	B		
渉外部	保護者や地域住民に情報発信をする。	PTA新聞「あおい」を年2回発行し、学校およびPTA活動に関する情報を外部へ発信する。	A	B	コロナ禍が続き学校行事やPTA活動が縮小・限定される中、今後のPTA活動活性化の為の方策を考えていきたい。
		生徒広報委員会の活動を通して、近隣中学校や地域住民に学校の情報を発信する。	B		
	保護者が参加しやすいPTA組織づくりをする。	定例会・各種専門委員会の開催により、PTA役員・保護者との連携に努める。	A		
		PTA総会を開催し、PTA会則の見直しや保護者の負担軽減を図る。	B		
		生徒指導部及び各学年との連携を図り、学年委員協力の下、年2回（1学期末及び2学期末）登校指導を行う。	A		
	同窓会との連携を図る。	同窓会役員会への出席と同窓会入会式の実施を支援する。	A		
図書部	図書館の環境整備に努める。	本校の現状と教育目標をもとに配架計画を立てる。	A	B	図書館の利用者は昨年度と比較して増加し一定の役割は果たせているが、不読率の減少にまでは至っておらず、更なる働きかけが必要である。 学習センターとしての機能を充実させる。 利用しやすく魅力ある図書館となるよう環境を整備する。 読書習慣の重要性を周知させるための広報活動を積極的に行う。
		利用価値が低い図書を除籍・廃棄し、図書資料の充実を図る。	C		
		電子黒板の活用等を通して、学習センターとしての機能を充実させる。	B		
		配架する図書のデータベース化を行う。	B		
		各教科と連携を図り、図書の購入計画と活用計画を立てる。	B		
	読書習慣の定着を図る。	図書館便り・学校行事等を通して読書の楽しさを伝え、読書習慣の定着を図る。	B		
		生徒図書委員と図書担当職員の研修に努める。	B		

別紙様式２（高）

評価項目	具体的目標	具体的方策	評価		次年度（学期）への主な課題
第1学年	基本的生活習慣と学習習慣の確立を図る。	学習することの意義を理解させ、計画的な学習習慣の確立を目指す。	A	B	進路意識の更なる向上と学習意欲の向上が課題として挙げられる。将来何をしたいかやどうなりたいかを考える機会を設けたい。また、具体的な職業が決まっていない生徒も多数おり、得意科目を生かす進路選択についても指導する機会を設けるべきであると考える。学習面については3年生の進路活動に向けて自主学習の習慣をつけたい。特に家庭学習の習慣化を図りたい。生活面について多くの生徒は落ち着いているが、休み時間の過ごし方等のけじめをしっかりつけていきたい。また、他者への配慮に欠ける生徒が見られる。周囲の状況を理解し、状況に応じた行動が取れるように指導していきたい。
		基礎的学力の養成と、家庭学習の習慣化を図る。	B		
		礼節を重んじ、節度のある高校生活が送れるよう指導する。	B		
		提出期限の厳守、登校状況、服装容儀などの基本的生活習慣の確立に努める。	B		
	進路意識の醸成と適切な進路選択の支援を図る。	発達段階に応じて適切に計画を立て、進路意識を深める。	A		
		職業を知り、自己を見つめ、自分の適性に応じた進路選択を支援する。	B		
		望ましい職業観を育成し、早期に進路意識を確立させる。	B		
	社会に貢献し、社会から求められる人材の育成に努力する。	自己肯定感を高め、自己の可能性を開発できるよう支援する。	A		
		社会に積極的に関わり、他者に配慮できる人材を養成する。	B		
		自分の言動に責任を持ち、場に応じた言動が取れるようにする。	B		
第2学年	基本的生活習慣と学習習慣の確立を図る。	能率手帳を活用し、生徒一人一人の自己管理能力を高め、物事に対して計画的に行動できることを目指す。	B	B	生活面では遅刻や欠席が目に付く生徒が見られ、休校中課題の提出期限厳守など改善の必要があるため、継続して基本的な生活習慣の確立に努めていきたい。コロナ禍で限られた機会となってしまったが、面談や進路行事を通じて生徒の進路意識の向上や内面的な成長を促すことができた。次年度も生徒の希望する進路実現のために、引き続き情報共有を行い、協力して生徒の対応にあたりたい。
		基礎的・基本的な学力の養成と家庭学習の習慣化を図る。	A		
		提出期限の厳守、登校状況、服装容儀などの基本的生活習慣の確立に努める。	B		
	進路活動及び特別活動の充実を図る。	進路ガイダンスや上級学校見学会など進路に関する情報収集の機会を設け、自身の適性や希望に応じた進路選択ができるように努める。	B		
		各自の進路選択を行うなかで、自己を見つめ、生徒の内面的な成長を促すとともに進路への意識を高める。	A		
	社会に求められる人材を育成する。	規範意識及びマナーを身につけ、時と場や目的に応じた立ち振る舞いができるように支援する。	B		
		自己肯定感を高め、自己の可能性を開発できるよう支援する。	B		
		ホームルーム活動や学校行事などを通し、所属する集団(クラス・学年・学校)に貢献する意識と行動を育てる。	A		
第3学年	基本的生活習慣と学習習慣を確立させる。	授業や行事等において、時間やルールを意識させ、けじめのある行動を身に付けさせる。	B	B	生活面では、多くの生徒が節度を守り学校生活を送ることができたが、一部の生徒に遅刻や頭髪の乱れが見られた。学習面では進路実現に向け目標を持って努力する生徒が多く見られたが、後半は進路が決定した生徒も含め、授業に集中できない生徒もでてしまった。 また、今年度は新型コロナウイルスの影響で就職試験や各入試が例年より遅れたことで、生徒の進路意識の高まりや各試験への準備が間に合ったように感じる。進路については、早期に進路が決定した生徒への対応も含め、早くから計画を立て進めることが大切であると感じた。 人材の育成では、学校行事や集団においての活動や、個々の進路活動が生徒の成長に大きく影響していたが、一部の活動に消極的な生徒に対する支援の難しさもあった。 学年団は経験豊かな先生方がそろっており、協力して生徒への対応にあたることができた。
		自己指導力を育成し、服装、頭髪や挨拶等の基本的マナーの向上を図る。	B		
		進路実現への意識を高めると共に、放課後等の学校における学習場所・学習時間の確保や、スタディサプリの利用を促進するなど、学習環境を整えることで学習意欲を高め、基礎的学力の向上を図る。	B		
	進路実現のための支援を充実させる。	進路に関するワークシートを活用し、進路先や就職に関する情報の整理や面接等への準備をさせる。さらに、担任による面談や多くの教員が係わり適切なアドバイスを行うことで、生徒の希望に応じた進路決定ができるようにする。	A		
		総合的な学習の時間を計画的に実施し、進路別コースの充実を図る。	A		
		進路に関わる看護体験、ボランティア活動など校外での体験活動を充実させる。	B		
	社会に求められる人材を育成する。	規範意識、ルール・マナーを身につけ、時と場と目的に応じた立ち振る舞いができるように支援する。	B		
		学校行事などを通して、自己管理能力を向上させ、日頃からPDCAサイクルを持って生活するよう支援する。	B		
		所属する集団(クラス・学年・学校)だけでなく、社会への所属意識と貢献できる行動力を育てる。	B		

※評価基準: A:十分達成できている　B:概ね達成できている　C:あまり達成できていない　D:不十分である